

堺市立黒山小学校
令和7年度
学校教育重点目標

2025. 4. 1

校長 所 浩子

令和7年度教育方針

堺市立黒山小学校 校長 所 浩子

第3期「未来をつくる堺教育プラン」 【堺の教育理念】「ひとつづくり・まなび・ゆめ」

・豊かな心の 人づくり ・確かな 学び の形成 ・ゆめをはぐくむ教育の推進

めざす子ども像 「それぞれの世界へはばたく“堺っ子”」

- ◆自分のよさを知り、人を認め、人とつながり協働する
- ◆自ら律し、自ら学び続け、自らを表現する
- ◆ゆめの実現に向けて挑戦する
- ◆堺を愛し、堺を誇りとする
- ◆多様な価値観を認め、多様な文化を理解する

めざす学校像 「子どもの未来をつくる学校」

- ◆主体的・協働的な学びを通して「総合的な学力」を育む学校
- ◆多様性を認め、一人ひとりの個性を尊重する学校
- ◆子どもの発達段階に応じて一貫した教育を行う学校
- ◆「チーム力」を発揮し、家庭・地域・関係機関とともに子どもを育てる学校
- ◆いじめの未然防止・早期発見・早期対応に真摯に取り組み
早期解決を図る学校

めざす教員像 「情熱・指導力・人間力を備えた教員」

- ◆子どもを愛し、ゆめと情熱をもち続ける人
- ◆豊かな人権感覚をもち、信頼される人間力をもつ人
- ◆高い危機管理意識をもち、子どもの生命や心身の安全・安心を確保できる人
- ◆「いじめは絶対に許さない」と毅然とした態度を示し、子どものSOSに気づく感度の高い人
- ◆子どもに寄り添い、学び続け、確かな指導力をもつ人

今年度は令和3年度に策定された「第3期未来をつくる堺教育プラン」の最終年度です。

本プランでは、すべての子どもたちが多様性を認め、ゆめや目標、挑戦心や粘り強さをもって、感性を豊かに働かせながら未来を切り拓くことができる力を育む必要があると示されています。

超スマート社会(Society5.0)の到来や、新型コロナウイルス感染拡大など予測困難な時代において、次代を担う子どもを育成するためには、これまでの学校教育の成果と課題を踏まえつつ、教育が社会の変化についていくのではなく、教育が社会の変化を生み出すという強い意志をもって、GIGAスクール構想におけるICTの積極的な活用等、新たな時代に対応した取り組みを推進することが、より一層求められています。

**子どもたち一人ひとりが未来を切り拓くことのできる資質・能力を教職員全体で共有
家庭や地域と連携しながら、
組織的な取組の推進**

令和7年度までの指標

指標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
学力調査の堺市の平均値(全国を100とした場合) (全国学力・学習状況調査)	小6 100.5 中3 95.8	小6 103 中3 100
「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童生徒の状況スコア [※] (堺市教育委員会調べ)	小6 59.5 中2 54.0	小6 70 中2 70
「ふだんから『なぜだろう。』『調べてみたいな。』と思うことがある」と答えた児童生徒の状況スコア [※] (堺市教育委員会調べ)	小6 70.6 中2 66.5	小6 80 中2 80
「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童の割合 (堺市教育委員会調べ)	小6 78.0%	小6 80%
児童生徒のICT活用を指導する能力があると考える教員の割合 (学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	76.6%	100%
インターネットやゲームなど、情報をやり取りするときのルールやマナーを守ることができる児童生徒の割合 (堺市教育委員会調べ)	—	小6 100% 中3 100%
「自分にはよいところがある(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6 83.1% 中3 73.2%	小6 90% 中3 90%
「人が困っているときは、進んで助けている(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6 89.3% 中3 85.4%	小6 94% 中3 90%
体力テストの堺市の平均値(全国を100とした場合) (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	小5 98.3 中2 95.4	小5 102 中2 102
「朝食を毎日食べていますか」という設問に対し「全くしていない」「あまりしていない」と答えた児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6 5.8% 中3 9.2%	全国値以下
「特別支援教育研修及び校区内研修等により、教員の特別支援教育に関する専門性や指導力が向上している(当てはまる・どちらかと言うと当てはまる)」と答えた学校園の割合 (堺市教育委員会調べ)	—	100%

指標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
スタートカリキュラムを編成・実施後に、評価改善を行っている小学校の割合 (堺市教育委員会調べ)	19.6% [※]	100%
前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 59.8% 中学校 69.8%	小学校 62% 中学校 72%
不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等 [※] での相談・指導等を受けた人数の割合 (堺市教育委員会調べ)	59.6%	100%
「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる(よくしている、どちらかといえばしている)」と答えた学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 94.6% 中学校 97.7%	小学校 100% 中学校 100%
「先生は、よいところを認めてくれている(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6 88.7% 中3 78.4%	小6 92% 中3 85%
「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれる(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童生徒の割合 (堺市教育委員会調べ)	小6 88.4% 中2 78.8%	小6 90% 中2 85%
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対し「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6 88.9% 中3 81.0%	小6 100% 中3 100%
いじめアンケート(年3回以上(学期に1回以上))の結果を、その都度「学校いじめ防止等対策委員会」で共有し、対応した小中高等学校の割合 (堺市教育委員会調べ)	—	100%
不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等 [※] での相談・指導等を受けた人数の割合 (堺市教育委員会調べ)	59.6%	100%
堺市立学校園の管理下における事故被災率 [※] (堺市教育委員会調べ)	6.4%	各年度において、前年度を下回る
「保護者や地域の人のと協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった(そう思う・どちらかといえばそう思う)」と答えた学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 90.2% 中学校 95.4%	小学校 96% 中学校 97%

子どもたちが多様性を認め、夢や目標、挑戦心や粘り強さをもって、それぞれの可能性を伸ばし**未来を切り拓く力**を育むことをめざして

Change & Challenge

教育委員会と学校園が思い一つにして意識・行動・学びを**Change**

未来を担う堺の子どもたちのための行動や取組に、果敢に**Challenge**

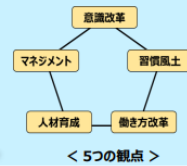


学校群を中心としたマネジメント
 中学校区を構成する小・中学校を「学校群」という1つの単位としてとらえ、「学校群を中心としたマネジメント」により、一体的な小中一貫教育に取り組みます。

教育効果の最大化を実現するGIGAスクールの推進

不祥事を未然に防止する実効性のある“意識の徹底”と“仕組み”の構築

堺の教育に対する信頼回復に向け、令和6年3月に策定した「未来をつくる堺のプライド（誇り）」を活用した、それぞれの教員の“意識改革”と、不祥事を未然に防ぐための“自らの気づき”に向けた取組を継続的に行います。



めざす姿・重点的に取り組む項目

総合的な学力の育成 **学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子どもの育成** めざす姿：学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども

- 1 授業モデル「探究×ICT」を活用した授業改善
- 2 探究的な学びの推進
- 3 読解力を育む授業実践
- 4 IRT調査による個々の子どもの状況分析及び支援
- 5 集団の状況に着目した分析及び授業改善
- 6 教科等横断的な視点でのカリキュラム改善

不登校の子どもへのサポート **不登校の子どもの学びとつながりの実現** めざす姿：不登校により学びにアクセスできない子どもたちをゼロにする

- 1 学校が楽しく、安心できる場所となるための取組の推進
- 2 ICTを活用した「学び」や「気づき」のための効果的な活用実践
- 3 それぞれの子どもが安心できる居場所の確保
- 4 市長事務部局や市役所以外の関係部署（機関）との連携強化

特別支援教育の充実 **「ともに認め合い、支える」特別支援教育の実現** めざす姿：共生社会の一員として、「ともに認め合い、支える」ことができる子ども

- 1 それぞれの子どもの状況に応じた「学びの場」の見直し
- 2 就学前から卒業後までの切れめのない支援や関係部署との連携強化
- 3 教員の専門性の向上やICTを活用した効果的な実践

教職員の働き方 **働きやすく「働きがい」のある学校の実現** めざす姿：1 教職員が心身ともに健康な状態で、安心して働くことができる
2 教員が子どもの成長を実感することができる
3 保護者・地域と信頼関係を築くことができる

- 1 長時間勤務者に対する改善計画の作成と実施
- 2 教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置
- 3 授業時数の柔軟な運用と適切な管理
- 4 長期休業期間の見直し
- 5 採点、授業準備・教材研究におけるICT活用の推進
- 6 校内清掃のあり方
- 7 学校行事、校外学習、宿泊学習の精選
- 8 市長・教育長からの地域・保護者向けメッセージの発信
- 9 持続可能な学校部活動への移行

GIGAスクールの推進 **教育効果の最大化を実現するGIGAスクールの推進** めざす姿：教育効果の最大化

- 1 ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、探究的な学びの充実
- 2 ICTを活用した多様な子どもへの対応
- 3 ICTを活用した教職員が働きやすく「働きがい」のある学校の実現

Change & Challenge

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/kyoiku/gakko/changechallenge.html>

総合的な学力向上

特別支援教育の充実

不登校の子どもへのサポート

教職員の働き方
働きやすさと働きがい

学校力向上プランにも
位置づけ

学校群

ねらい;

・スケール

ひと・もの・資金・情報・実践知の最大限活用
(子どもの減少、学級数の減少、教職員の減少)

・社会変化

社会の価値観の多様化への対応

・校種を超えた連続した学び

変化のはげしい時代における

子どもたちに身に付けてほしい力を

9年間で「つながる教育」で育てる

令和7年度 全市で実施

①学校群推進組織体制の構築

②学校群教育目標の設定

学校群グランドデザインの作成

③取組の検討

令和7年度 ALL美原(2中1一貫校5小)

① 学校群教育目標

「(知)学びを楽しみ、(徳)仲間とのふれあいを楽しみ、
(体)体を動かすことを楽しむ 美原っ子」

② 夏の合同研修

7月23日 美原中学校にて

会場は持ち回り

毎年、終業式2日後

令和6年度 学校教育目標

『自ら学ぶ意欲を育てる教育活動の推進』
 『★知・徳・体の調和のとれた黒小っ子の育成』
 『★堺版地域コミュニティスクール「黒小ネット」の推進』



令和6年度 重点目標

「つながり力」でチーム学校の実現 ～協働的な学びをとおして～

黒小っ子の合言葉(あいことば)
 「つながる力」をつけよう！のばそう！はっきしよう！
 めざせ「聞き耳名人」「お話名人」「発見名人」！

めざす学校像

- 一人ひとりのよさと個性をみとめ、生きる力をはぐくむ学校
- 教職員がチーム力を発揮し、課題に挑戦する学校
- 家庭・地域と連携・協働できる学校

めざす子ども像

- ★進んであいさつのできる子 ★自分も人も大切にできる子
- ★何事にもねばり強く頑張る子 ★自ら考え、行動できる子
- ★夢に向かい、今日を明るく生きぬく子

ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

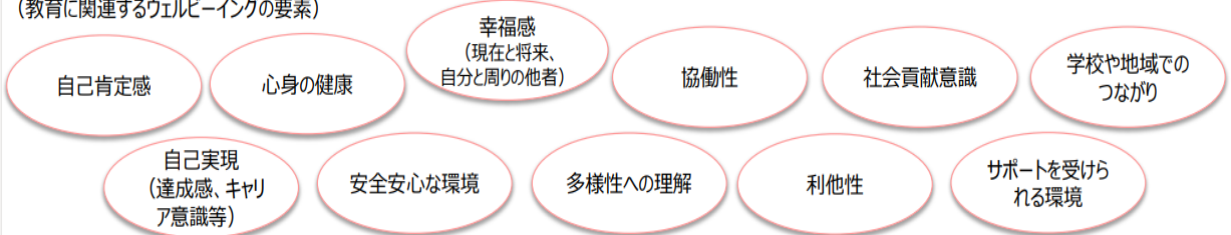
ウェルビーイングの 向上について

次期教育振興計画(国)における方向性

教育とウェルビーイング

- ・不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要
- ・子供・若者の主体性や創造力を育み、一人一人の自己実現を目指すことで、持続可能な社会の創り手としての基盤となる資質・能力を育成
- ・地域における学びを通じて人々のつながりやかかわりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成

(教育に関連するウェルビーイングの要素)



(各要素を育む教育活動の例)

教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
 - 子供たちの多様な状況に応じた学習者主体の学び、多様な他者と協働した学び
 - きめ細やかな指導を通じた確かな学力の育成

多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂による共生社会の実現に向けた学び・生徒指導
 - 特別支援教育、いじめ・不登校対応、等

地域や家庭で共に学び合う環境整備
 - コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
 - 社会教育を通じた地域コミュニティ形成

キャリア教育・職業教育、課題解決型学習
 - 社会的・職業的自立に向けたキャリア発達
 - 地域や社会の課題解決型学習

豊かな心・健やかな体の育成、安全・安心
 - 道徳教育、体験活動、学校保健の推進
 - 学校施設の整備、学校安全の推進

グローバル社会における国際交流活動
 - 海外留学推進、外国人留学生受入れ
 - 地域社会の国際化、多文化共生

(関連する主観的指標)

主観的認識のエビデンス把握

- 自分にはよいところがあると思う
- 将来の夢や目標を持っている
- 授業の内容がよく分かる
- 勉強は好きと思う
- 自分の幸福感
- 友人関係の満足度
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 人が困っているときは進んで助けている
- 学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 困りごとや不安がある時に先生が学校にいる大人にいつでも相談できる

【令和7年度 学校教育目標】

学ぶ意欲を育てる教育活動の推進

☆知・徳・体の調和のとれた黒山っ子の育成
☆堺版地域コミュニティスクール「黒小ネット」の推進

< めざす学校像 >

- 一人ひとりのよさと個性をみとめ、
生きる力をはぐくむ学校
- 教職員がチーム力を発揮し、
課題に挑戦する学校
- 家庭・地域と連携・協働できる学校

< めざす子ども像 >

- ★進んであいさつのできる子
- ★自分も人も大切にできる子
- ★何事にもねばり強く頑張る子
- ★自ら考え、行動できる子
- ★夢に向かい、今日を明るく生きぬく子

「主体的、対話的で深い学び」「心と体の健全な育成」「特別支援教育の充実」「学校力の向上」

令和7年度 黒山小学校教育重点目標

「つながり力」で「魅力的なチーム学校」の実現
～「わくわく・いきいき」とおして～

ICT活用
デジタルDXによる
業務改善

☆職場としての重点取り組み ～ 真の「働き方改革」にむけて ～ 「働きやすさ」と「働きがい」
☆カリキュラム・マネジメント(RV-PDCAサイクル)の好循環による学校教育活動の活性化

・子どもたちの思考力・判断力・表現力等の向上 … 主体的・対話的で深い学び
生活・総合的な学習の時間を活かす

「指導と評価の一体化」(つきたい力と子ども自身のふりかえり

自己調整力

成果物

学びの記録(ポートフォリオ) 自分の変化や成長を知る

所見

学びの方略の獲得を意識した学習の場づくり

- ・チーム学校 かかえこまない ほっとかない 教職員も 子どもたちも！
- ・個に応じた教育(特別支援教育の充実 ユニバーサルデザイン授業の推進)
- ・学びのコンパス … 個別最適化の実現(子どもの「問い」から始まる学び)

全員が
同じ時間に
同じことをする…
教科書どおり…
から
離れてみる発想

子どもたちにとっても、「学びやすさ」と「学びがい」があってこそ、「楽しい！」

なんのために学ぶのか どのようにして学ぶのか 何の力を使うのか(何の力がつくのか)を明確に！
それがなければ、「定着」「持続」が困難になる…

学級の一番困っている子にフォーカス「教える」から「学び」へ

変化の激しい時代において、持続可能な社会を形成する力が、子どもたちに求められています。そのためには、未知の状況にも対応できるような思考力、判断力、表現力等が必要です。それらは、①人の意見や思いを受け止めて「つながる」、②あきらめずに根気よく「ねばる」、③自分の状況や考え、願いをふまえて「自分で自分の言動や心のうちを自己決定していく経験」を多く持つことで育まれていくものだと思います。これらの力は、意図的かつ計画的に集団や子どもたち個人に働きかけることをなくしては育成はのぞめません。その働きかけ(支援)は、集団や個々の子どもたちの「今の姿」をみつめ、「めざす姿」へのステップを見定めて行われるべきものです。そのステップは、教育における「評価」であると考えます。「評価基準」を設定し、集団や個々の子どもの「今の姿」をモニタリングしながら、自らの教育活動を持続的に改善し、「めざす姿」を希求して行くこと。それこそが、学校教育活動です。

変化の激しい時代にさらされているのは、学校も同じです。「個に応じた教育」がますます求められるようになってきています。より柔軟に、しなやかに、RV-PDCAサイクルを意識し、カリキュラムマネジメントを適切に行うことで、子どもたちによりよい学びの場を提供できると考えます。それを支えるのは、「人とつながる力」です。教職員も、しっかりつながりあいましょう。そしてそれぞれの強みを生かしたりーダシップを発揮してください。子どもたちも場や力に合わせてリーダーシップが発揮できるように支援してください。学校内外の人と力をあわせて、変化の波をわたっていきましょう。

○『誰一人取りのこさない教育』 授業のICT活用・UD化を推進する。全員の授業参加を保証する。

- ・構造化…授業途中で一度学習内容を整理する時間を設ける。
- ・共有化…ペアでの確認や他の児童の言葉を再現させるなど、自分の言葉で話す場面を作る(協働性育成)。
- ・視覚化…ヒントとなる掲示物、色別したフラッシュカードなどを用意する。(個別最適化)
- ・授業後の成果物(ノート・ワークシート)で、到達度を見て取る(形成的評価)。→フォローを入れる

【令和7年度 学校指標一覧】

1. 「総合的な学力」の育成

- ・授業改善;主体的対話的で深い学びの実現 個別最適化な学びの実現
- ・学力調査結果等を検証、改善方策について全職員で検討年1回以上
- ・全教職員の参画「カリキュラムマネジメント」の充実 校内研究授業6回
- ・UDL(通常学級でも)についての教職員の資質・向上

2. グローバルに活躍できる力の育成

- ・「子ども堺学」の学習を、全学年で年2回以上
- ・外国語教育の充実(多文化共生教育の充実)

3. 超スマート社会で活躍できる力の育成

- ・ICT教育の充実
- ・プログラミング教育の充実

4. 豊かな心の育成

- ・人権校内研修を年1回以上実施 人権課題についての学びの場の保証
- ・保護者への道徳公開授業を年1回実施 人権研究授業を年1回実施
- ・感謝・社会性・協力等の視点を重視した「あいさつ」運動の展開

5. 健やかな体の育成

- ・運動の楽しさを実感できる教育活動改善
- ・がん教育・組織的な食育・睡眠教育の推進

6. 特別支援教育の充実

- ・相談窓口を保護者に周知し、全教職員で支援体制を構築
- ・特別支援教育研修を年1回 こども支援委員会を月1回 以上実施
- ・支援学級担任研修会や校外の研修会に1名以上参加し、全校で共有

7. つながる教育の推進

- ・スタートカリキュラムを編成・実施・評価・改善 幼児期までの10の力を意識
- ・保幼小合同研修会、1名以上受講 ・ワクワクひろば年2回以上
- ・学校力向上プランに小中一貫グランドデザイン(学校群)の内容を位置づける。
- ・中学校区における情報交換を学期に1回、合同研修を年1回以上(オンライン含む)

8. 学びの機会の確保

- ・3日連続欠席児童の情報交換、7日以上所在等不明の場合は報告
- ・日本語指導必要児童の教育課程編成と個別の指導計画の作成

9. 学校マネジメント力の向上

- ・「学校力向上プラン」を作成・公表し、進捗状況、年度末評価の公表
- ・「学校協議会」を年3回以上実施
- ・「ワーク・ライフ・バランスの推進」 衛生委員会学期に1回実施

10. 信頼される教員の育成

- ・学校がめざす子ども像実現に向けた研究テーマの校内研修年3回以上
- ・公開授業と全員参加の協議会を年6回以上実施
- ・「いじめチェックシート」を活用した校内研修を年1回以上
- ・年度当初に全職員に個人情報の取扱いに関する研修実施
- ・毎月1日を「個人情報点検デー」とし、適正な取扱いと管理の徹底
- ・人権研修を全職員が年1回以上受講
- ・「体罰根絶のために(第3改訂版)」を活用した校内研修を年1回 以上
- ・コンプライアンスやハラスメント防止に関する校内研修を年1回 以上

11. えがおあふれる 学びの場づくり

- ・いじめアンケート年3回以上、3年間保存
- ・「学校いじめ防止対策委員会」を設置し、情報共有と会議録の作成
- ・「学校いじめ防止基本方針」を見直し、HPに掲載

12. 子どもの安全確保

- ・「学校安全担当」を位置づけ、「学校安全計画」を作成
- ・転落事故防止や不審者侵入防止の視点を含めた安全点検を月1回
- ・「地震・津波対応マニュアル」を活用し、「学校園防災計画」を作成
毎年、検証し、更新する
- ・災害時利用できる施設開放区域明示、3ヶ所以上避難スペース確保

13. ひろがる教育の推進

- ・学校の実情や特色に応じた、地域や企業、NPO法人等と連携

14. 生涯にわたる学習環境の充実

- ・教育行政、他校種、医療、地域や企業、NPO法人等と連携

15. 教育環境の整備

- ・学校の実情や特色に応じ、教育行政、地域と連携した計画的ソフト面の充実学校協議会

16. 学校施設の整備

- ・学校の実情や特色に応じ、教育行政、地域と連携した計画的ハード面の充実

【令和7年度学校力向上プラン】(学校の指標づくりの土台)

NEW 4部会
学校群

<p>研修</p> <p>特別支援・人権</p> <p>確かな学び</p> <p>おもしろい! たのしい!</p>	<p>思考力・判断力 基礎基本とは 何かを問い直す</p> <p>ICT活用</p> <p>授業改善 研修</p>	<p>子どもたちの思考力・判断力・表現力の育成のために、学校教育活動全般において主体的対話的で深い学びの実現及び個別最適化な学び(U D授業)、言語活動の充実(学びの動機づけ)を図る。 ICTの活用や各種調査結果から学びの最適化を図る。 家庭学習と授業の接続を図る。読書の励行。 子ども自らが生活・学習をふりかえり、適切な判断力に基づく実践力お よび継続力の育成を図る。(ポートフォリオ等の活用)(深い学びへ)。教 えるから学ぶへ。ICT活用等。 学びの記録と自己省察(ふりかえり)の充実 … 自己調整力</p>
<p>豊かな心 ・ 健やかな体</p>	<p>特別支援・人権 心の教育の充実 生徒指導</p> <p>体力の向上 健康・安全</p>	<p>多様性を受け入れ、自らの思いを発信し、お互いの成長を支え合う集団 を育成する。異学年、地域、他校との交流。ポジティブ行動支援。アセス (学校適応尺度)の活用。人権課題との出会い。 自らの成長や、心地よさを感じながら、体力向上に取り組む子を育てる。 「みんなく」「食育」 HP、学校だより、学年だより、学級だより等で、学校教育活動の積極的 な発信、公開をすすめる。地域、家庭、学校の協働体制をすすめる。(生 活科・総合的な学習の時間への参画) 学校の支援組織である「黒小ネット」と連携し、地域とともに歩む学校づ くりに取り組む。</p>
<p>地域協働</p>	<p>信頼される学校</p> <p>教務</p>	<p>4部会</p> <p>他校との実践交流、インフルエンサー、初研、幼稚園子ども園等との交流 を相互参観やICT活用等で推進していく。</p>
<p>縦につながる学び 横に広がる学び</p>	<p>学校群 架け橋期プログラム</p>	

カリキュラム・マネジメント(自立し持続可能な教育活動の改善)

RV-PDCAサイクルのV(学校教育重点目標)の達成の具現化

- ・質の高い学年会で「チーム学校」を実現 今の子ども姿 めざす子どもの姿 それを支える支援
- ・主体的対話的で深い学び、指導と評価の一体化の実現
- ・思考力・判断力・表現力のみとりを確実に**情報活用能力の育成**(診断的評価・形成的評価・最終評価)
ルーブリック(評価基準)の提示(毎時間・単元ごと) ポートフォリオ 学びのメタ認知をはかる
学びを深めるための構造的な授業・板書・ノート・**児童用PCの文房具化を視野に**
(中学校へつなぐ)(協働的な学び 指導と評価の一体化 個別最適化)
- ・**時間は最も希少な資源**であることを念頭においた充実したタイムマネジメントの実施
1日の流れ、1時間の流れを、必ず最初に伝える。(ユニバーサルデザイン)
15分の枠組みで、朝、昼、放課後に集中した学力保障タイム
- ・先生も子どもたちも、新しいことにチャレンジ 変化への対応を!
GIGAスクール 総合的な学習の時間の充実(探究的な「みんなく」)教科横断的な学習
- ・子どもが活躍する場面の意図的な設定「はとぶえ」「読書手帳」「スポーツテスト」など

総合学カプロフィールについて

堺市

Q. 非認知能力のうち、学習方略とは何か?

学習方略

学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

- 柔軟的方略** 学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動
- プランニング方略** 計画的に学習に取り組む活動
- 作業方略** ノートに書く、声に出すといった、作業を中心に学習を進める活動
- 認知的方略** より自分の理解度を深めるような学習活動
- 努力調整方略** ながてなどの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

参照:堺玉島教委作成資料

R6 堺市総合学カプロフィールより

非認知能力		平均
①	自己効力感	69.3
	努力調整方略	70.1
	認知的方略	69.1
	作業方略	64.3
	プランニング方略	66.9
②	柔軟的方略	68.1
	主体的・対話的で深い学びの実施	72.1
③		

R7 3p
アップ目標

R7黒山小 共有ビジョン

●●力

で
子どもたちは自分のWellbeingを
自分の力で
創造できるはず！

私たちのミッション

小学校教育の中で、「社会で自立し、自らのwellnessを創り出せる力」を、子どもたちにつけられると信じている。私たちの教育活動には意義があると信じている。

課題解決(早く正確に)が求められていた時代から
課題が一見みあたらない時代
新しい価値を創造していく時代
自分のWellbeingを創造する力
を
子どもたちが
つける必要がある！

WHAT

HOW

WHY

私たちがすること
Tryすること

算数科
生活科

総合的な学習の時間を軸とした

カリキュラムマネジメント

主体的対話的で深い学び

- ・指導と評価の一体化
適切な評価をし、その結果から教師が自律的に授業改善
- ・個別最適化
同じ時間 同じ場所 同じ方法で学ぶこと以外の方略も視野にいれる
ユニバーサルデザインの授業
- ・協働的な学び
授業への教師のマインドセットをチェンジ
ジグソー法やワールドカフェなど
(子どもを学びの主体者に)
思考ツール活用
(思考するとは何かを明確に)
OPPの活用(学びのメタ認知)
GIGAスクールの実現
(ICT活用の可能性をひらく)

教師が教える授業から
子どもが探求し表現する学びへ

令和7年度 黒山小学校教育重点目標

居場所と出番
の保証

認める

めざす 魅力的な学校

わくわくしながらプランをたて、いきいきと働く職員が
わくわくしながら見通しをたて、いきいきと学ぶ子どもたち

今年度も

「つながる力」に着目！

子どもたち自身が
意識できるように！

探究的な学び

学びのコンパス

STEAM教育
自由進度学習への
チャレンジ

チーム担任制
とは？
児童観
指導観を共有！

- ★人とつながる
あいさつ
「わからない」が言える
「おしえて」が言える
- ★学びとつながる
？や！がある授業づくり
解決したい間がある授業づくり
居場所と出番がある授業づくり

45分を
どう
組み立てる？
座席にすわったまま？
プリント学習？

育てたい 非認知能力

非認知能力

①	自己効力感
② 学習方略	努力調整方略
	認知的方略
	作業方略
	プランニング方略
	柔軟的方略
③	主体的・対話的で深い学びの実施

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造
的に示す

学習内容の削減は行わない※

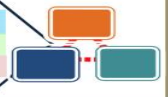
※高校教育については、豊かな学術的知識の習得が大学入学選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



令和7年度 黒山小学校教育重点目標

「つながり力」で「魅力的なチーム学校」の実現
～「わくわく・いきいき」をとおして～

非認知能力

①	自己効力感
②	学習方略
	努力調整方略
	認知的方略
	作業方略
	プランニング方略
③	柔軟的方略
	主体的・対話的で深い学びの実施

他者貢献 はた(周りの人;児童・保護者・同僚・地域)をらくにして「はたらく」
+
自分貢献

【堺市教職員人事評価制度】

コンプライアンス遵守 同僚性の発揮 **教職アイデンティティの確立**
教職員のQOLの向上(他者 貢献と自己貢献のバランスを)

《教科指導力》

思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み

《自立・自己実現の支援》

どの子ども自己存在感, 自己有用感, 自己有能感が感じ取れる取り組み

(学校生活の中で活躍場面を創出 安心・安全 居場所づくり)

《学校運営》

学校重点目標の実現

組織人である自覚

(自己評価シートに反映させる)

※ どの取り組みも、年間を通して取り組み、第三者がはっきりと評価を確認できるもの
にしてください。(客観的に数値で示すことのできる判断材料で必ず評価する。)

共創するヴィジョン

共同体としてのめざす子どもの姿

令和7年度 黒山小学校教育重点目標

「つながり力」で「魅力的なチーム学校」の実現
～「わくわく・いきいき」をとおして～

学校の教育活動
のベース

個人としての
部分

共同体としての
部分

初研で
研究授業

ICT

読み聞かせ

他の研究Gへ
の参加

わくわくしながら見通しをたて
いきいきと学ぶ子どもがいる
わくわくしながらプランをたて
いきいきと働く職員がいる
魅力的な学校

おひとりひとり先生方の

教職アイデンティティ

自己マスタリー なぜこの仕事を選んだのか

学年目標・学級目標

変化の大きい社会の中で 自分のWellbeingを実現する

幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態

「つながり力」で「魅力的なチーム学校」の実現 ～「わくわく・いきいき」をとおして～

国

全国学力調査

府

すくすくウォッチ

市

堺市学調

子どもへのアンケート

学校教育アンケート

教科研修アンケート

心のアンケート年3回

スポーツテスト

カリキュラムマネジメントにおける評価の実践

学校力向上プラン
学校協議員

学校教育目標にむけて
児童アンケートなど
学校教職員が
評価基準を4月にさだめ
中間・最終と評価
全教員が主体的に参加

学びの土台

非認知能力

①	自己効力感 努力調整方略
②	学習方略 認知的方略 作業方略 プランニング方略 柔軟的方略
③	主体的・対話的で深い学びの実施

テスト系

小テスト系

つまづき把握

総合学力P

スクリーニング

なぜ それをするのか
大人も子どもも考える

☆働き方改革 働きやすさ 働きがい

子どもにとっても 大人にとっても 安心・安全 魅力的 Change&Challenge

☆特別支援教育の充実

☆「総合的な学力」の育成

☆不登校の子どもへのサポート

教育相談・就学相談

子ども支援委員会

学校保健委員会

アレルギー対応委員会

いじめ不登校対応委員会

特別支援
人権

健康安全

研修

生徒指導

特別支援教育

道徳教育

人権教育

健康安全教育

教科教育

総合的な学習の時間

生徒指導

対話する道徳

自らの健康に自覚的に

高学年をリーダーに

学校のやくそく
学校いじめ防止
基本方針

一人ひとりを大切に
ちがいを認め合う
いいところさがし

参観日等保護者啓発

人権課題への理解

自主・自立・自律

主体的
日常的な
運動

みんなく

7つの約束

同和
外国籍
障害者

自主学習

自立した学び手へ
授業と連携

SC SSW
関係機関との連携

規範意識の醸成

就学相談の充実

姿勢 返事 あいさつ

LGBTq+
国際平和

自分で自分の身を守る
避難訓練 交通安全
放課後の過ごし方
不審者 災害

給食
清掃

目標は
だれが決める？
評価は？

調査結果を
生かした
授業づくり
異学年交流

通級指導

「困った子」？
本当は「困っている子？」
多様なことばの獲得
多様な経験と感覚

質の高い 読書 / 多様な 自己表現の場(はとぶえ) / 多くのコミュニケーションの方法と時間と場

UDL(合理的配慮 個別最適化な学び) アセス 協働的な学び 共感的子ども理解

主体的・対話的で深い学びの創造 探求的な学び 総合的な学習の時間 生活科
地域資源活用 ICT活用 育てたい力をみとおして 学校図書館の活用推進

学びのコンパス

令和の学びへ

専科教育の推進

STEAM教育

教職員の指導観をアップデート 洗練化
私たちはどのような教育活動を展開するのか

令和7年度 黒山小学校教育重点目標

「つながり力」で「魅力的なチーム学校」の実現 ～「わくわく・いきいき」をとおして～

黒小ネット 開かれた学校づくり 学校協議会

地域

- ・見守り隊
(感謝の会)
- ・地域行事
- ・堺版
コミュニティーS
- ・地域資源活用の
キャリア教育、
環境教育等への
参画

学校

- ・主体的、
対話的で
深い学びの実現
- ・チーム力を
生かした
学校運営
- ・教職員の
人権意識の醸成
- ・教職員の専門性
授業力向上に
資する研修
- ・幼保小中連携の
充実
- ・HPでの積極的
発信

家庭

- ・学校の教育活動
への深い理解を
もとにした
協力、支援、参画
- ・堺市
「家での7つの
約束」
- ・家庭学習習慣

他の教育機関(幼保小中)…学校群 架け橋期
美原区行政
堺市教育行政(教育委員会)
堺市行政

社会全体

国際情勢



堺の教育への信頼を守るために

・意識改革

影響を受ける人のことを考えて！
責任を果たす！

・マネジメント

組織人であることを忘れずに！

・習慣・風土

学校も社会の一部。
本当の心理的安全性を！
(相互指摘できる仲に！)

・人材育成

職務の意義を常に心に、頭に。
教職員は、自らを高めることも職務！

・働き方改革

タイムマネジメントだけでなく、質の向上を！

○人権尊重

○誇り

○自分ごと

○知的理解

○気づき

※個人情報手渡し！

※生指メモやホワイトボード、ノートの扱い

「つながり力」で「魅力的なチーム学校」の実現
～「わくわく・いきいき」とおして～

キーワード

ICT持ち帰り
宿題の出し方
ポートフォリオ
(めあてとふりかえり)
ルーブリック

○チームで取り組むとは…

- ・指導観を合わせる
- ・ともに子ども理解を深める

○具体的方略をとるとは…

- ・授業はじまりの3分 終わりの3分
- ・朝の時間の活用
- ・ときには、2分割、3分割など
- ・空き時間、あおぞら、通級、自分や他クラスの様子を見る

非認知能力

①	自己効力感
②	学習方略
	努力調整方略
	認知的方略
	作業方略
③	プランニング方略
	柔軟的方略
	主体的・対話的で深い学びの実施

子どもは有能な学び手である

個別最適な学び・協働的な学び

子どもが、自分自身の学びの内容や学び方、成長などについて
語ることができる学び

新たな授業形態

学習の集団や時間、順番、教材・
教具、課題、結論等が、同じでは
なく、個々の子どもが自分に最適
なものを選択できる授業形態

ミックス

進化した一斉授業

新たな授業形態を行うことにより、
一斉授業の強み、弱みを教員と子
どもが実感した上で、一斉授業の
強みを生かして行う授業形態

※一斉授業 … 教師が知識を伝達することとは異なる
強み

全員で共有したい情報を伝達したり、様々な意見をもとに対話したりすることができること
弱み

自分が学びやすい方法を選んだり、自分のペースで学びを進めたりすることが難しいこと

授業改善の視点

集団をかえる … 内容価値に応じて
時間をかえる … 個々に適した時間
教材・教具をかえる … 個々に適したものへ
学習課題をかえる … 複数の学習課題を準備
結論 … 異なった結論 オープンエンド

校内研究授業
学校教育重点目標へ
のチャレンジ！